

CDB シンポジウム 2015 を開催

2015年4月15日

理研 CDB では、今年も CDB シンポジウムを 3 月 23～25 日の 3 日間にわたり開催した。今年で 13 回目を迎える本イベントの、今回のテーマは'Time in Development'。世界 11 の国と地域から合計 144 人の研究者が一堂に会し、発生研究のキーワードである「時間」に様々な角度から焦点を当て、熱い議論を交わした。



生物の発生は、時々刻々と形を変えながら、「単純」から「複雑」を生み出すプロセスだ。今回はこの「時間」をテーマに、32 講演とポスター53 タイトルが発表された。時間依存的な細胞の運命決定、分子オシレーション（摂動）による形態形成機構、組織や器官の形・大きさを制御する発生タイミングに迫る研究、種における寿命、さらには生物の進化などに関する多種多様な研究が議論された。今回のシンポジウムは、University College London の Claudio Stern 氏、理研の倉谷滋室長（倉谷形態進化研究室）、理研 CDB の花嶋かりなチームリーダー（大脳皮質発生研究チーム）、西村 隆史チームリーダー（成長シグナル研究チーム）の4名がオーガナイザーを務めた。なお、次回の CDB シンポジウム'Size in Development: Growth, Shape and Allometry'は、2016年3月28～30日に開催予定。